

令和 2 年度学校教育教員養成課程

(推薦入試Ⅱ型)


小学校教育専修家庭科教育コース

中学校教育専修家庭科教育コース

小論文

表 紙

[解答上の注意]

1. 試験開始後、表紙 1 枚、問題用紙 1 枚、解答用紙 1 枚、下書き用紙 1 枚があるか、確認しなさい。
もし、欠落のある場合には挙手して、そのむねを申し出なさい。
2. 解答用紙の受験番号欄に、受験番号を忘れずに記入しなさい。
3. 解答は、それぞれの問題ごとに指定された解答用紙に、指定された文字数で、横書きで記入しなさい。句読点も 1 字に数えます。
4. 解答用紙の太線  部分には、何も記入しないようにしなさい。
5. 試験終了後、解答用紙を回収します。(全 1 枚)
表紙を含め、問題用紙、下書き用紙は各自持ち帰りなさい。(全 3 枚)

令和2年度学校教育教員養成課程

(推薦入試Ⅱ型)

小学校教育専修家庭科教育コース 中学校教育専修家庭科教育コース

小論文

問題用紙 全1枚

問題 次の文章を読んで、設問に答えなさい。

主婦が家でやっていることが、労働とみなされにくい時代は長く続いた。今でもおそらく台所に立ち、散らかった部屋を片づける主婦を、「働いている」とみなさない人もいるだろう。子どもや要介護の家族の相手をするを、「労働」と言うと違和感がある、という人もいるだろう。

それらの行為を労働と位置づけるのではなく、「共に暮らす人全員が関わる生活習慣」として再編成してはどうだろうか。

朝起きて歯を磨き、顔を洗う。湯を沸かし、料理する。食事し、後片づけする。子どもの服を着せながらおしゃべりする。身支度して出かける。あるいは洗濯など別の家事を行う。介護する相手に食事をさせて話し相手になる。帰るついでに買いものをして料理する。食べて話をする。片づける。風呂に入って寝床を整え眠る。

これらの活動を「ここからここまでが労働で、ここからは違う」とたやすく線引きできるだろうか。例えば、一人暮らしの人は、家事を労働と思わずこなしている部分もあるのではないだろうか。家族のいる人が負担を感じるのは、協力しようと思えばできるはずの人がしないからだ。

確かに、やれば疲れる家事は少なくない。フルタイムで働いた後に料理し、子どもをなだめすかして寝かせるのは、疲れることだ。それが大変でないと言うつもりはない。しかし、疲れるのは「働いた」と思われるときだけではない。人混みのテーマパークに出かけた後も、スポーツで汗を流したときも、新しい洋服を買いに行ったときも疲れるのだ。人が活動すれば疲れるのは当たり前である。「精神的な負担が違う」という人もいるかもしれないが、料理が楽しい、達成感がある掃除が好きという人もいる。子どもの相手をするのが、何よりの癒やしだという人もいる。一方で、買いものや外出が義務化していて負担とを感じる人もいる。

家事は生活の一部なのだから、収入があろうがなかろうが、子どもであろうが大人であろうが、障がい者や老人であろうが、できることはやるのがよいのではないだろうか。交替制もいい。分担制もいい。もちろん、外注する部分があってもいい。

(出典：阿古真理『料理は女の義務ですか』新潮社、2017年による。原文は縦書き。表記を一部変更した。)

問1. 文章の内容を200字以内で要約しなさい。

問2. 共に暮らす人全員が家事を行うと、家族のメンバーや家族にどのようなメリットがあるか、具体例を挙げ自分の考えを400字以内で述べなさい。